

(別冊1) 令和3年度 熊本市エイズ総合対策報告書

**令和3年度
各団体での取り組みについて**

令和4年(2022年)5月

熊本市保健所 感染症対策課

各団体での取り組みについて

目次

令和3年度 熊本市エイズ総合対策推進会議 委員名簿

I	各団体における取り組みの実施状況について	1
II	各委員からのご意見等	7

令和3年度（2021年度）熊本市エイズ総合対策推進会議委員名簿

※新任

	構成	氏名	所属
1	学識経験者	まつした しゅうぞう 松下 修三	熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター 教授
2		まえだ ひとみ 前田 ひとみ	熊本大学大学院生命科学研究部 教授
3		くぼ まさこ 久保 昌子	熊本大学大学院教育学研究科 教授
4	保健・ 医療関係	すぎの しげと 杉野 茂人	熊本市医師会 理事
5		たなか やおき 田中 弥興	熊本市歯科医師会 副会長
6		まるめ しんいち 丸目 新一	熊本市薬剤師会 会長
7		いで くにこ 井手 州子	熊本県看護協会 副会長
8		しいば ひろあき 椎葉 浩亮	熊本県栄養士会 熊本市地域事業部副部長
9	教育・ 青少年団体	なつき よしひろ 夏木 良博	熊本県公立高等学校PTA連合会 会長
10		うのき たえこ 卯野木 妙子	熊本県私立中学高等学校保護者会 監事
11		ふくしま たかひろ 福島 隆弘	熊本市PTA協議会 常任理事
12		いのもと ひろゆき 猪本 浩之	熊本市青少年健全育成連絡協議会 副会長
13		せ た ももこ※ 瀬田 朋子※	熊本県高等学校保健会 理事
14	人権擁護関係	みやざき ななみ 宮崎 奈那海	熊本県弁護士会 弁護士
15		よしむら じょうじ 吉村 譲二	熊本市民生委員児童委員協議会 副会長
16	企業関係	かわた あきひと 川田 晃仁	熊本商工会議所 総務部 次長
17	労働団体	かきた まさひろ 柿田 将博	連合熊本地域協議会 事務局長
18	報道関係	よしだ しんいち※ 吉田 紳一※	熊本日日新聞社 編集局文化生活部 部次長
19	ボランティア 団体関係	たかやま いくこ 高山 いくこ	熊本市食生活改善推進員協議会 理事
20		こうぞう	Safety Blanket 代表

I 各団体における取り組みの実施状況について

【学識経験者】

■熊本大学大学院生命科学研究部

保健所が作成する中学生向けオリジナルミニパンフレットの表紙及び裏表紙について、イラストの作成を学生が担当した。

リモート授業により、学生と会う機会も少なく、啓発活動が難しかった。

■熊本大学大学院教育学研究科

今年度も大学の授業のほとんどがリモートとなり、学生と対面で関わる機会が非常に少なかった。

しかし、このような状況だからこそ、学生が困った時にいつでも相談できるような姿勢を示すことが大事であると感じている。

双方向型の授業は難しかったが、授業でエイズ・STI に関して取り上げた。

また、例年通りに教育実習期間が設けられたため、中学校においては STI に関する授業に参加できたようである。

年齢の近い学生が、中学生に話すことで互いに学び合うことができた。

【保健・医療関係】

■熊本市医師会

- (1) 医師会員に対して通年行われている「学術イベント」や「リフレッシュコース等の講演会は新型コロナウイルス感染症の影響で、開催が殆ど行われていないが、機会をみて医師会員への啓発を継続する。
- (2) 本会のテレビ広報番組「TKU 医療大百科」において、性感染症やエイズに関する情報提供を継続して行う。
- (3) 本会広報紙「森都医報」に本会議の報告記事（後掲）を掲載し、エイズ・STD 診療の重要性を喚起した。また、同広報誌には、行政（熊本市保健所）からの情報「HIV／エイズの現状と対策について」を掲載している。

令和3年度熊本市エイズ総合対策推進会議

担当理事 杉野茂人

熊本市エイズ総合対策推進会議（会長：松下修三 熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター特任教授、他医療、PTA、教育関係者等各界より委員数20人）について報告します。令和3年10月5日（火）にZoomを利用したオンライン方式にて開催されました。本会議はエイズの正しい知識の普及啓発、エイズに対する偏見や差別のないまちづくりに寄与することを目的とし、平成8年より毎年開催されています。

会長による講演「エイズ・HIV感染症の現状と課題」では、1981年初めてAIDS患者が報告されて40年、HIVの分離から治療薬の開発の歴史、エイズ予防指針の3本柱（普及啓発及び教育、検査・相談体制の充実、医療の提供・診療体制）について概説され、抗ウイルス療法の進歩により、HIV感染症の長期にわたる発症阻止が得られるだけでなく、新規感染を阻止できるようになった。HIV感染例の早期発見・早期治療開始のため検査機会の拡大を推進すべき（自己検査、郵送検査、病院内検査など）。ハイリスク群へはPrEP（暴露前予防内服）を柱とした感染予防キャンペーンなどが必要であると述べられた。

議事（熊本市感染症対策課）

1) エイズおよび性感染症の発生動向

全国の令和2年度の新規HIV感染者報告数は750件（昨年903件）とやや減少、新規AIDS患者報告数は345件（昨年333件）と逆にやや増加傾向である。また熊本県での報告数は、令和2年度の新規HIV感染者報告数は5件（昨年3件）、新規AIDS患者報告数は2件（昨年4件）と、4～5年前からはやや減少傾向との結果であった。

2) 平成30年度～令和4年度HIV感染および性感

染症の予防対策（計画）

熊本市保健所で令和2年度にHIV抗体検査を受けた件数は358件（平成31・令和元年度1,355件）と大幅に減少。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響が大きかった。平成30年度は1,197件の相談があり、令和4年の目標を1,780件とし、広く検査体制の周知を行い、市民にとって利便性の高い検査体制を構築し、検査数を増やしていきたいとの報告がなされた。

また市内で梅毒報告数が急増（平成28年度13件→令和2年度103件）していることから、梅毒報告数に関しても平成30年度から新しく成果目標とした。

3) 熊本市エイズ対策に関する令和2年度報告および令和3年度計画

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で検査・相談体制が縮小していたが、今年度はメールでの予約受付を再開するなど充実させていきたい。

1. 正しい知識の普及啓発（高校などへの講師派遣・出前講座、オリジナルDVDの作成、パンフレット作成など）
2. 相談検査体制の充実（メール予約、休日検査の実施など）
3. 推進体制の整備（ボランティア団体との協働など）

毎年同会議の報告記事で述べているが、HIV感染イコールAIDSというわけではなく、HIV感染の早期発見（検査）と早期治療開始でAIDS発症を防ぐことができるだけでなく、感染（拡大）の予防につながる事が明らかになっている。また今後感染者の高齢化などが想定され、会員施設での検査や相談に協力していくことが望まれている。

■熊本市薬剤師会

- (1) 学校薬剤師による薬物乱用防止教室などで、薬物並びにエイズなどの危険性を説明する。
- (2) 薬局に処方箋を持参された患者に、エイズ治療薬の服薬指導を適切に行う。

■熊本県看護協会

- (1) 12月の世界エイズデーには協会内に啓発のためのポスターを掲示した。
- (2) 熊本県看護協会では、熊本県全域を対象に小・中・高校向け「性教育出前講座」を実施し、その中で「エイズ・STI対策」についても講義している。
コロナ禍が続く中で令和3年度も、昨年度同様に対面及びオンラインによる講義を実施した。オンラインによる講義の普及で昨年度より実施校は増加したが、熊本市内の学校からの依頼は中学校1校2回、高等学校1校であった。

}	小学校：0校	}	計18校 延べ1,660人受講 (23回実施：同じ学校で学年別の実施有)
	中学校：15校		
	高校：3校		

(参考) 令和2年度実施状況

熊本市以外	}	小学校：0	計7校 (8回実施：同じ学校で学年別の実施有)
		中学校：6校	
		高校：1校	

■熊本県栄養士会

令和4年4月に研修会を予定しており、エイズ・STI対策のパンフレットの配布を考えている。研修会はZoomでの配信を予定しており、研修開始前に啓発動画を流せないかと考えている。

【教育・青少年団体】

■熊本県私立中学高等学校保護者会

例年は会長会議の中で推進会議出席の報告やポスター、資料等の配布により周知を図っていますが、コロナの影響により実施ができない状況にあります。

■熊本市 PTA 協議会

各区より集まる熊本市 PTA 協議会常任理事会での報告を行い、各区の代表理事へ説明をし、各区会員様への報告、周知をお願いしています。

■熊本県高等学校保健会

世界エイズデーにちなんで、保健だよりで啓発を行った。エイズ・性感染症を含めた性教育について、系統だった指導計画の作成を考えている。また、学校全体で取り組むことができるように、関係職員だけでなく、全職員で関わっていけるようにしたいと考えている。

熊本市地区の養護教諭へ、対策推進会議の資料を提供し、各校で活用を呼びかけた。

【人権擁護関係】

■熊本市民生委員児童委員協議会

エイズ・STI 対策として、組織として特別の取組みはありませんが、新型コロナウイルス感染症について、感染者に対して、あるいはワクチン非接種者に対するいじめのない差別等について、民生委員として適切な対応をしていくように心がけています。

【労働団体】

■連合熊本地域協議会

会議等で周知を行いました。

【報道関係】

■熊本日日新聞社

(1) 実施状況について

熊本日日新聞朝刊に関連記事（後掲）を掲載した。

HIV検査、相談激減

熊本市保健所 コロナ禍影響

2020年に熊本市保健所で実施したHIV(エイズウイルス)検査数と相談数が過去20年で最も少なかったことが5日、明らかになった。同日の市エイズ総合対策推進会議で報告され、会長の松下修三熊本大ヒトレトロウイルス学共同研究センター教授は「コロナ禍での検査控えと検査体制の縮小が影響しており、早期発見できない状況にある」と警鐘を鳴らした。

市感染症対策課によると、20年に市保健所で実施したHIV検査数は、前年比99.7%減の358件、相談数も100.6%減の367件で、こちらも激減した。近年は検査数、相談数ともほぼ1千件台で推移し

ており、検査数が400件を下回ったのは1998年以来、相談数は91年以來。市保健所は、平日に開設していたエイズ検査相談窓口を、コロナ対策強化のため昨年からは火・木曜日の午前中のみを縮小。今後は「コロナの感染状況を見ながら、検査枠を広げていきたい」と(同課)という。

同課によると、20年の県内で判明したエイズ患者は2人(前年4人)、HIV感染者5人(前年3人)で、昨年と同じ計7人。年齢別では29歳以下2人、30代2人、40歳以上3人だった。感染経路は男性間の性的接触が4人で最も多かった。(志賀栗里耶)

エイズに挑む 県内研究者

初報告から40年 治療薬開発貢献



満屋裕明さん



松下修三さん

1981年に世界で初めてエイズの症例が報告されてから、今年で40年。かつては「死の病」と恐れられたが治療薬が進展し、現在はHIV(エイズウイルス)に感染しても発症を抑えられるようになった。治療薬の開発には、熊本の研究者も大きく貢献している。12月1日は世界エイズデー。日本エイズ学会理事長で、熊本大ヒトレトロウイルス学共同研究センター長の松下修三さん(88)に聞いた。(志賀栗里耶)

熊本大ヒトレトロウイルス学共同研究センター長
松下修三さんに聞く

コロナ禍 検査控えに危機感

エイズ(後天性免疫不全症候群)はHIVに感染して免疫力が低下し、特定の疾患を発症した状態をいう。一般的には、HIVに感染してから自覚症状のない期間が数年続いた後に発症するとされる。

1981年、米ロサンゼルスで、免疫不全による肺炎を発症した男性5人が報告されたのが、世界初の症例。日本では85

年に最初の患者が認定され、HIVに汚染された血液製剤で多数の血友病患者が感染した時期もある。「同性愛者や血友病患者、麻薬使用者など患者集団に偏りがあったこともあり、新型コロナウイルス感染症以上の偏見、差別があった」と松さん。

HIV/エイズ治療の歴史	
1981年	米疾病対策センター(CDC)が最初の症例を報告
82年	後天性免疫不全症候群(AIDS=エイズ)と命名
83年	エイズの原因になるHIVウイルス発見
85年	日本で初めての患者認定 満屋裕明氏が最初の治療薬AZTの開発に成功
96年ごろ	複数の薬の抗ウイルス療法で長期生存が可能に
97年	熊本大に「エイズ学研究センター」発足
2013年以降	1日1回1錠の薬が登場

早期治療には検査による早期発見が必要だが、新型コロナウイルスの拡大で保健所のHIV検査体制は縮小。検査控えもあり、検査数は落ち込んでいる。20年の熊本市の検査数は3000件で、前年の1355件から激減した。

全国では、HIV新規感染者は08年をピークに減少しているが「HIV感染の判明が遅れ、無自覚のまま発症する『いきなりエイズ』と呼ばれる状況が懸念されている」と松さんは。民間医療機関や郵送での検査ができる「セルフ検査」に要望し、早期治療を促す掛けている。

「初報告から40年 治療薬開発貢献」

1981年に世界で初めてエイズの症例が報告されてから、今年で40年。かつては「死の病」と恐れられたが治療薬が進展し、現在はHIV(エイズウイルス)に感染しても発症を抑えられるようになった。治療薬の開発には、熊本の研究者も大きく貢献している。12月1日は世界エイズデー。日本エイズ学会理事長で、熊本大ヒトレトロウイルス学共同研究センター長の松下修三さん(88)に聞いた。(志賀栗里耶)

「研究部長」が、世界で初めてとなるエイズ治療薬「AZT」の開発・開発に成功する。ウイルスの増殖を抑える働きがあり、87年に承認される治療薬の大きな一歩となった。その後、第3の治療薬を相次ぎ開発。薬が効きにくくなる現象が現れるとその仕組みを解析し、複数の治療薬を組み合わせた「多剤併用療法」の基礎を築いた。

満屋さんに招かれ、松下さんも83年からNHUでウイルス増殖のメカニズムを探る基礎研究にあたった。「当時はNHUの同僚たちですら、HIVウイルスを研究室に持ち込むことを嫌がっていた」と振り返る。

97年、熊本大に日本の大学として初めて、エイズ研究に特化した拠点「エイズ学研究センター」が発足

「研究部長」が、世界で初めてとなるエイズ治療薬「AZT」の開発・開発に成功する。ウイルスの増殖を抑える働きがあり、87年に承認される治療薬の大きな一歩となった。その後、第3の治療薬を相次ぎ開発。薬が効きにくくなる現象が現れるとその仕組みを解析し、複数の治療薬を組み合わせた「多剤併用療法」の基礎を築いた。

満屋さんに招かれ、松下さんも83年からNHUでウイルス増殖のメカニズムを探る基礎研究にあたった。「当時はNHUの同僚たちですら、HIVウイルスを研究室に持ち込むことを嫌がっていた」と振り返る。

97年、熊本大に日本の大学として初めて、エイズ研究に特化した拠点「エイズ学研究センター」が発足

【ボランティア団体関係】

■熊本市食生活改善推進員協議会

コロナ禍で活動が思うようにできない状態です。

まず人が集まることが出来ない。

会員の年齢層が高い。

なかなかエイズについて話す機会がありませんでした。

■Safety Blanket

コロナ禍以降、交流会や学習会などの実施が出来ていません。

SNS を利用し HIV 検査について告知を流すことに留まっています。

今後の活動の方向性について保健所の方々に相談させていただければと思います。

Ⅱ 各委員からのご意見等

【学識経験者】

■熊本大学大学院教育学研究科

コロナ感染に注目が集まりがちだが、折にふれて学生には話していきたい。

【保健・医療関係】

■熊本市薬剤師会

(1) エイズ・STI 対策全般について

啓蒙による予防が第一。ポスターやチラシなどにより正しい知識の情報提供を行う。
衛生環境を整備する。

■熊本県看護協会

(1) エイズ・STI 対策全般について

青少年期からのエイズやSTI 対策のための教育は重要である。
コロナ禍で中・高校の出前講座が以前より減少している。そのような中に熊本市は、
令和2年度に啓発用オリジナルDVDの作成と配布があり、令和3年度の使用実績に
期待したい。

■熊本県栄養士会

(1) エイズ・STI 対策全般について

高1の息子が中3で勉強したと言っていますが、自分とは遠いことと考えている
ようです。自分のことと思ってもらうためには、家庭で親の口からエイズ・STI
について話す機会が必要な気がします。

【教育・青少年団体】

■熊本県私立中学高等学校保護者会

(3) その他

今年度は会議や催しが実施できるよう願っています。

■熊本市 PTA 協議会

(3) DVD や教材の活用を学校とも協議し、進めてほしいです。

■熊本県高等学校保健会

(2) エイズ対策推進会議について

初めて参加しましたが、様々な立場の方々のお話を聞くことができ、貴重な経験をさせていただきました。今年度もぜひ参加したいと思います。R3 年度はオンラインでの会議だったので参加しやすく、助かりました。

【人権擁護関係】

■熊本市民生委員児童委員協議会

(1) エイズ・STI 対策全般について

梅毒感染者の感染状況を新聞で見ました。気になるところです。
情報発信を続けていってほしいです。

(2) エイズ対策推進会議について

コロナ騒ぎが早く治まって、会議が再開されることを望んでいます。

【報道関係】

■熊本日日新聞社

(2) エイズ対策推進会議について

コロナの状況にもよりますが、対面での会合が開かれればと思います。

【ボランティア団体関係】

■Safety Blanket

(1) エイズ STI 対策全般について

オンライン予約受け付けの開始など、検査を受けるハードルを下げていると感じています。

ハイリスク層へのアプローチとしては、以前より提案させていただいている、同性愛者の出会い系アプリへの広告が効果的だと思います。

予算を広告に割くことが出来ないとうかがった記憶がありますが、予算がないわけではないと思うので、何か方法を模索していただければと思います。